

第5章 2. イスラーム世界の発展 e, イスラーム社会と貿易の発展

①イスラーム社会…[1 **都市**]を中心に発展、[2 **貨幣**]経済の発達

寺院([3 **モスク**])、学院([4 **マドラサ**])、市場(スーク)を中心とする

イスラーム諸学をおさめた知識人[5 **ウラマー**]が重視される。
→イスラーム世界各地で学ぶ、宗教・政治・社会の指導者として尊敬される

②都市を結ぶ交通路の整備→都市を結ぶ自由な商品流通を可能に、知識のネットワークの形成
隊商宿([6 **キャラバンサライ**])の整備

③商業活動の活発化→イスラーム世界の外にも積極的に進出
[7 **隊商**]貿易→中国・南ロシア・内陸アフリカに

[8 **海上**]貿易→[9 **ダウ**]船で地中海・東アフリカ、インド洋・東南アジア・中国へ
とくに[10 **胡椒**]など香辛料・金・[11 **陶磁器**]・[12 **木材**]・象牙・珊瑚・絹などを交易
↓
各地に商人たちの[13 **居留地**]を形成→[14 **イスラーム**]教布教の拠点となる

④東西交易の急速な進展→各地の技術や文化の流入と世界への紹介
大旅行家=[15 **イブン=バトゥータ**]「三大陸周遊記」、[16 **千夜一夜物語**]=各地の物語

f. イスラーム文明の特徴

①[17 **融合**]文明…エジプト・[18 **イラン**]など征服地や[19 **中国**]・[20 **インド**]・ビザンツなど周辺地域などの文化遺産を、イスラーム教と[21 **アラビア**]語の下に融合、発展させる。

例…[22 **千夜一夜**]物語=インド・イラン・アラビア・ギリシアなどの説話を集めて成立
民族を越えた文化 **ギリシアの文献をアラビア語に訳す**

②[23 **普遍的**]文明…[24 **イスラーム**]教 [25 **アラビア**]語という共通性を背景に各地で受容される
→各地の民族文化と融合、多様なイスラーム文明を形成していく

→西ヨーロッパ=イスラームの著作をラテン語訳→新たな学問の基礎を形成→[26 **ルネサンス**]へ
(スペインの[27 **トレド**]大学中心)
[28 **ギリシア・ローマ**]文明を西ヨーロッパ文明に橋渡しする役割を果たす

哲学・医学…ギリシア哲学、とくに[29 **アリストテレス**]の研究→信仰と理性の調和をはかる
[30 **イブン=ルシュド**]、イブン=シーナー「[31 **医学典範**]」ら
→中世ヨーロッパの[32 **スコラ**]哲学や医学に影響

化学…[33 **錬金**]術より発達

数学…インドからの[34 **ゼロ**]の概念や数字([35 **アラビア(算用)**]数字)、10進法をまなぶ
フワーリズミーらによる代数、三角法の開発

g. イスラーム教徒の学問・文化

①[36 **コーラン**]の研究と、それに関連し発達した学問=[37 **自国の文化**]

・言語学([38 **アラビア**]語の研究)と、神学・法学([39 **コーランなど**]の研究・解釈)
ガザリー→[40 **ギリシア哲学**]に学んだ合理的客観的な神学体系を形成
[41 **神秘主義**]の立場に立つ

・ムハンマドの伝承の採集→歴史学の発展
[42 **イブン=ハルドゥーン**]「世界史序説」=都市と[43 **遊牧民**]の発展から歴史の法則性を研究
四行詩集

②文学…詩人[44 **オマル=ハイヤーム**]「ルバイヤート」(セルジューク朝)←自然科学者としても有名
フィルダウシー「シャーナーメ(王の記)」(ガズナ朝)
説話文学…[45 **『千夜一夜物語』**]

③美術・工芸…[46 **細密**]画(ミニアチュール)、金属器、[47 **アラベスク**]模様
↑中国[48 **水墨画**]の影響 ↑アラビア語や植物を図案化

※ただし[49 **神像**]や人物画などは作られない←50 **偶像崇拜禁止**のため

④建築…[51 **モスク**]建築…[52 **丸屋根**](ドーム)と[53 **尖塔**](ミナレット)が特徴